

如水館中学校 2023年度中学入試分析

【国語】

・問題作成の意図（難易度設定や特徴など）

例年通り、[一]物語文、[二]説明文、[三][四][五]言葉に関する問題という構成です。今年度は記述問題がやや少なめでした。難易度については、表現技法など易しいものから、文章全体を正しく読解する力、心情や内容把握等が求められる問題まで、バランスよく含まれています。

・採点上の気づき、受験生の解答の特徴

誤字や乱雑な字が目立つ解答が見受けられたのは残念です。注意深く丁寧に解答を記入する習慣を身に付けて欲しいと思います。

記述問題については空白になっている受験生もいれば、本文の言葉を用いつつ、設問の指示に合う形で自分の言葉でまとめることができている受験生もいました。記述問題に対して苦手意識を持っている人もいますが、実際に書く練習をしている受験生とそうでない受験生の差が、解答にはっきり出たようです。

・受験生に求めたい力や考え方

設問を含めた文章を注意深く読む力、本文の言葉も利用しながら設問に対する答えとなるようにまとめる力、基礎的な「言葉の力」をつけてほしいと思います。

【算数】

・問題作成の意図（難易度設定や特徴など）

教科書の問題を中心に出题をしています。

- ①計算問題
- ②一行問題（小問集合）→単位変換や覆面算（ふくめんざん）など、数に関する問題
- ③図形（立体）
- ④割合、速さなど

⑤数列

⑥推理問題

一つの分野にかたよることなく、まんべんなく出題をしています。

・採点上の気づき、受験生の解答の特徴

本校の算数の解答用紙には単位が書かれていません。解答用紙には注意書きとして「単位が必要な場合は単位も記入すること」と表記しています。日頃から単位に気をつけたり、何を問われているかをしっかり考えて、問題を解く習慣が必要です。

・受験生に求めたい力や考え方

先にも挙げましたように、本校は教科書をベースに問題を出題しています。そのため、教科書に書かれていることをしっかりと理解することが大切です。理解するためには多くの問題を解くこと、そして、ただ単に解くのではなく、図や表をつくるなど「工夫して」解く方法を考えながら学習をしていくことが大切です。

【英語】

・問題作成の意図（難易度設定や特徴など）

英検5級レベルを基本として4級レベルの問題を若干数含めています。

問題構成は①リスニング ②英単語の書き取り ③対話文問題 ④文法・語彙（ごい）問題 ⑤並べ替え問題 ⑥広告・メールなど、となっています。最近では、英検を受験する児童が増えているため、英検に向けての学習が本校の入試対策にもつながるよう作問を行っています。日ごろの学習が中学入試にもつながり、さらにはそれが中学校入学後の学習や資格取得につながることを意識しています。

・採点上の気づき、受験生の解答の特徴

小学校で英語が教科化されましたが、小学校では基本的に「書く」ことをあまり行いません。本校の入試では、単語を聞き取る問題を4問程度出題しますが、やはりそこで苦戦する受験生が多い印象です。一方、リスニングについてはどの得点層においても比較的正答率が良く、「聞き取る」という面では大きな差はないように感じます。ただし、それをアルファベットにすると、日常生活でよく目にするような単語であってもローマ字表記になっている答案が多くあります。音とアルファベットを一致させることを日ごろから意識して学習に取り

組むと、英語力の向上にも役立ちますので是非取り組んでもらいたいと思います。総合的に見ると、年々出来はよくなっていると感じます。おそらく、英検を受験する児童が増えていることもその要因の1つではないかと推察します。

・受験生に求めたい力や考え方

本校入学後は、基本的には英語学習の基礎から授業を行います。小学校で学習する英語と比較して、「単語や英文を書く」が増えます。その際、小学校時代に音と単語のスペルを間違っ てリンクして覚えてしまうと、それを修正するには多くの時間を要します。小学校で使用している教科書に出てくる単語や、日常生活で目にするような単語については、「発音しながら書く」習慣を身につけておくと、スムーズに中学校での英語学習に移行できます。「英語」はやればやるほど力がつきます。日々の生活で英語を目にしたり聞いたりする機会を大切にしてもらいたいと思います。

【社会】

・問題作成の意図（難易度設定や特徴など）

基礎的な知識を確認しつつ、資料の読み取りも含めた出題としています。問のなかには、設問文や資料を用いて思考する問題も取り入れています。基礎知識の確認を重視しているため、難易度は易しめに設定しています。

難易度 A（難）→ C（易）

- ① 地理分野：C
- ② 歴史分野：B
- ③ 公民分野：B
- ④ 総合問題：B

この出題方式は例年引き継がれております。

・採点上の気づき、受験生の解答の特徴

大問3の公民分野については、悩んだ跡が見られました。また、殆ど記号で答える方形式にしている関係上、漢字ミスなどはほぼなく、解答のし易さはあったと考えています。

・受験生に求めたい力や考え方

まずは基礎的な知識の定着を求めています。併せて、今後は、思考力や読解力を問う設問を増やしていく予定です。そのため、資料やグラフなどを用いた問題へ多く接することで、設問に対しての読み取りのコツを掴み、思考する力を伸ばす必要性があるかと考えます。

【理科】

・問題作成の意図（難易度設定や特徴など）

化学分野は、苦手とする生徒が多いため、難易度はかなり低めに設定をしています。また、今回の問題に関しては、身の回りにある物を題材にしており、普段から気にしているかどうかを見えています。

地学分野は教科書の範囲内で作成しています。地層と夏の大三角に関する出題しました。物理分野も教科書に例としてある“モビール”について、基本事項と条件を変えた場合を考える問題を出題しました。物理分野は特に、日常生活にモデルが多いものが題材になりやすいと考えています。

生物分野はヒトのからだの器官とヒトの誕生について出題しました。

・採点上の気づき、受験生の解答の特徴

少し条件を変えた計算問題（㊦-3）は、得点率がとても低かったです。また、㊦-問2の計算問題（呼吸に関する割合の計算問題）の得点率が低かったように感じられました。

・受験生に求めたい力や考え方

化学は目に見える内容もあれば目に見えない内容もあります。普段から生活の中で物質の変化などに気を付けてみてください。

物理分野だけでなく中学理科全般として、分数や比の計算で解けるものが多いです。算数の文章題から計算式を出す力、基本的な計算力をつけてほしいと思います。

生物分野は、知識の定着はもちろん、今回のような割合などの計算力も身に付けてほしいと思います。